

区政会議でいただいたご意見への対応方針

番号	年月	区政会議委員意見	対応方針	分類
令和5年度第2回区政会議（令和5年12月11日開催）				
1	R5.12	【こどもの居場所・学びの場】 ・こどもの居場所における学習支援情報はホームページだけで発信されているが、SNSも最大限活用すべき。(池田委員) ・こどもの居場所について、利用者数を増やすために個々の施設にはキャパシティの問題があるので、もっと場所の拡大をすべき。(平嶋委員)	・こどもの居場所における支援情報について、区広報紙や区ホームページに加えSNSも活用し積極的に情報発信を行います。 ・こどもの居場所の拡大に向けて、こども食堂などの運営事業者や学習支援を行う事業者に対して引き続き働きかけてまいります。	①
2	R5.12	【こどもの居場所・学びの場】 「こどもの居場所」について、取組をしても地域には情報が伝わっていないので地域も巻き込んだ情報提供が必要。(佐藤委員)	事業者が地域や校区の小学校に向けてこどもの居場所開設にかかる説明会を行う際には区役所も同行するなど、事業者と連携して取り組んでいます。区広報紙やホームページ、SNSの積極的な活用などにより地域への周知に努めてまいります。	①
3	R5.12	【不登校児童支援】 不登校児童の支援の一環として、例えば学校内にスペースを設け、子どもの多様な活動を認め、達成感を子どもが得られるような工夫ができないか。(栗谷委員)	既に各校では不登校の子どもに対して、限られたスペース・人員で工夫をこらして支援を実施していますが、引き続き学校と効果的な支援の取組について検討してまいります。	①
4	R5.12	【不登校児童支援】 ・不登校の子どもへの巡回訪問は大事。教職員は多忙なので、教職員以外の方の訪問も検討してはどうか。不登校の解決に向けては学校教育だけではなく、職業人に接する機会の創出など、さまざまな切り口がある。(山田委員) ・不登校対応にあたっては教員やSSW(スクールソーシャルワーカー)など生の声を聞くべき。良い例が共有できる。(栗谷委員)	・不登校支援については現在もSSWが定期的に教員やスクールカウンセラーなどと意見交換、情報共有し支援を要する家庭への訪問などを通じて個々の状況に応じた支援を行っていますが、引き続き学校との連携を密にして支援を進めてまいります。 ・不登校経験を持ち現在、社会で活躍している方の経験を聞いたり、活躍している姿を見せる機会は重要と考えられるため、学校と意見交換しながら関係機関と連携して検討してまいります。	①
5	R5.12	【子育て・教育】 以前区の事業で行っていたプロスポーツ選手などを部活動指導などに呼ぶ取組はどうか。子どもの目が輝く。(栗谷委員)	学校教育や部活動等におけるプロスポーツ選手やチームとの連携については、学校とも意見交換を行い、学校が抱える課題の解決やニーズに応えるため、区としても積極的にコーディネートを行うなど取り組んでまいります。	①
6	R5.12	【子育て・教育】 同学年だけではなく異学年の親同士の交流連携を持つためにも何らかの場所が必要。(吉田委員)	子どもの学年に関わらず参加できる生涯学習ルームやスポーツをはじめとした地域活動の積極的な紹介、防災訓練等PTAと連携した地域活動への協働を通じて、交流を図っていますが、更なる交流の場を検討してまいります。	①
7	R5.12	【高齢者への情報提供】 ・高齢者が情報を得やすい場の提供や情報を見やすいように工夫を凝らすなど広報のあり方についても検討が必要。(服部委員) ・マンション建設が進み、他市や他区から当区へ引っ越しして来られる高齢者の方も増え、区民の皆さんに必要な情報がきちんと届いているか。(奥野委員) ・最近では、高齢者でも携帯(スマホ)を多く持つようになっていたので、LINEアカウントを増やし、災害時の対応も含めて役立つ情報をもっと発信していくとともに、高齢者にも見やすく、すぐに情報をキャッチすることが出来るような工夫も必要ではないか。(奥野委員)	高齢者へ必要な情報を適切に届けることができるように、区社会福祉協議会、老人福祉センター、各関係機関とも連携し、様々な媒体で高齢者が見やすく、わかりやすい情報を発信できるよう取り組んでまいります。合わせて、地域役員や民生委員児童委員とも引き続き連携し、高齢者食事サービス、ふれあい喫茶などの場も活用して情報発信、周知に努めてまいります。 なお、大阪市LINE公式アカウントでは利用者が必要な情報をより便利に得られるように、希望するカテゴリーの情報のみが受信できる「セグメント配信」が開始されたほか、令和6年4月からは各区の情報が入手しやすくなるような項目の見出しが導入される予定です。	②
8	R5.12	【見守りサポーター】 ・「独居高齢者等見守りサポーター事業」において、対象が75歳以上の独居高齢者、高齢者のみ世帯となっているのはなぜか。また、75歳以上の高齢者を把握できているのか(橋本委員) ・高齢者の方が増えているが、ひとり暮らしの単身者について、全部把握できているか(江畑委員)	独居高齢者等見守りサポーター事業の対象者は75才以上の独居または高齢者のみの世帯で、介護サービス等外部の見守りが入っていない世帯です。65歳から75歳未満の高齢者は、まだ元気な方が多く見守り訪問を希望される方が少ないため、本事業では75歳以上を対象としています。なお、区役所では独居高齢者の把握が可能であり、本事業の対象者には同意確認の文書を送付し、見守り訪問を希望されるか意向確認しています。	①

9	R5.12	<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災は町会単位が基本になると思うが、区役所によるマンション防災の取組は自主防災などマンション単位で独立してしまうため、かえって町会との連携につながらないのではないか。(石野委員) ・自主防災組織、とりわけ災害救助青年部と地域のマンションとのつながりも大切ではないか。災害救助青年部は町会から出てもらっているが、町会未加入のマンションとの関わりが難しい。(佐藤委員) ・マンションで防災訓練を実施しても居住者の3分の1くらいしか集まらない。(高橋委員) ・マンションや地域で防災訓練を実施する必要がある。(堀井委員) 	<p>区役所では、ご希望されるマンションに出向いてマンション防災出前講座を実施しています。出前講座では、マンション内でのルール作りや事前の備えについて説明をしていますが、災害時には避難所が情報や物資の拠点となることから、マンションの自主防災組織と避難所を運営する自主防災組織(地域・町会)との連携が非常に大切であるため、平常時から地域との交流や顔見知りになることの重要性もあわせて伝えています。また、地域防災リーダー(災害救助青年部)の中からマンション防災サポーターに登録していただき、出前講座の中で、地域での防災の取組や活動などを紹介していただく機会も設け、地域とつながるきっかけとなるよう取り組んでいます。</p>	①
10	R5.12	<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災や防犯は難しいが、災害発生時には町会が核にならないといけない。(竹田委員) 	<p>過去の災害の経験から、災害時には行政による対応(公助)のみならず、自助と共助が重要であることが分かっています。自助については、出前講座や広報紙など様々な機会を捉えて事前の備えなどを発信しています。また、地域本部設置、避難所開設及び運営、安否確認を行うなど共助の中心となる自主防災組織(地域活動協議会や地域振興町会などで構成)に対して、各種訓練の支援を積極的に行っています。</p>	①
11	R5.12	<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いが難しく、災害時に支援が必要な人や支援ができる人の情報を集めにくい。(榎井委員) ・高齢者など支援が必要な方を災害時にどうすればいいか心配。(江畑委員) 	<p>大阪市では災害時に支援が必要な方を避難行動要支援者名簿として保有しており、そのうち災害時の支援や日頃の見守りのために自身の個人情報を区役所が認定した地域団体(自主防災組織等)に提供することに同意した方については、地域団体に情報提供しています。また、名簿に掲載された方に対して個別避難計画(避難行動要支援者「支援プラン」)の作成にも取り組んでいるところです。 (参考ホームページ https://www.city.osaka.lg.jp/tennoji/page/0000587397.html)</p>	①
12	R5.12	<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時避難所の場所は分かるが何人避難者が来るの分からない。(榎井委員) 	<p>天王寺区では、災害時避難所を20か所指定しており、想定最大受入人数については避難所別にホームページで公開しています。 (https://www.city.osaka.lg.jp/tennoji/page/0000120501.html) 想定避難者数については、避難所別の想定はありませんが、大阪府の公表内容によると、南海トラフ巨大地震で発災1週間後に最大5,253人、上町断層帯地震で10,928人が天王寺区の避難者と公表されています。</p>	①
13	R5.12	<p>【地域社会づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会情報は町会の回覧板で見れるが、町会未加入者には町会情報が伝わらない。町会掲示板もあるが情報が行き届いていないと思う。町会単位で情報発信できるツールがあればいいと思う。(上田委員) ・町会は地域の要であるが地域によって違いがある。地域で話し合いの場を持つなど、マンション住民とも各種イベントを通してつながりを持つ取組を既に行っている。(服部委員) ・町会加入者は、災害時に備蓄がどこにあるかなど把握しているが、未加入者は知らない。マンション居住者や若い人の中には町会への関心が無い人が多い。(川畑委員) 	<p>地域活動の中心を担う町会の活性化は地域コミュニティが持続するために重要と捉えております。マンション住民や外国籍住民、若い世代の住民が増え、地域とのつながりの希薄化が懸念されている中で、より多くの住民が地域コミュニティに関心を持ちつながりづくりのきっかけとなるよう、地域活動の情報発信や活動の取組を支援してまいります。</p>	①
14	R5.12	<p>【地域社会づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区広報板や町会掲示板に情報は掲示されているが、ポイントをおさえて見てもらえる工夫が要る。区広報板を電子化すれば、情報が随時更新され、みんなが見えるようになると思う。(佐藤委員) ・地域の掲示板を活用してイベントなどの広報を行っており、多くの住民参加があることから、掲示板での情報発信は有効と考えている。地域でイベントを活性化を行うことにより人が集まり、人と人とのつながりができていく。(竹田委員) ・マンションが増加し、小学生も増えてきている。小学校内でのつながりはあるが、地域とのつながりが無くなってきたと感じる。(佐野委員) ・地域で行うお祭りなどのイベントは、広く周知できれば、もっと人が集まるのではないかと。(宮崎委員) 	<p>区広報紙が全戸配布となり、地域の活動情報が幅広い世代に届くよう紙面を工夫して、地域活動情報を毎月掲載するとともに町会加入の呼びかけも行っています。区広報板を電子化する予定はありませんが、今後とも地域の活動やイベントを区広報板やSNSなどで情報発信し、住民が地域の活動へ参加・参画されるよう取り組んでまいります。</p>	①
15	R5.12	<p>【地域活動協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンター支援のもと「お手伝い体験会」でボランティア参加希望者と地域とのマッチングが行われており、地域行事の場に新たなボランティア参加がありよかったと思う。今後も取り組んでいってほしい。(長谷川委員・藤本委員) 	<p>「お手伝い体験会」へのボランティア参加者や地域の活動者の声を、様々な広報媒体を活用して紹介を行い、つながりづくりが広がっていくよう取組を強化してまいります。</p>	①

16	R5.12	<p>【SNS】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区のLINEアカウントが大阪市LINE公式アカウントに統合されることで移行漏れが無いように、LINE登録を促すチラシを校園を通じて保護者に配付する等により、周知を図ってはどうか。(岡崎委員) ・ハッシュタグを活用することで、若い住民の間での情報共有を促すことができるのでは。(岡内委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市LINE公式アカウントについては、広報紙等で周知しているところですが、引き続き他の媒体も活用しながら移行漏れが無いように、広く周知してまいります。 ・SNSでの情報発信については、いただきましたご意見も参考にさせていただきますながら、より効果的な情報発信に取り組んでまいります。 	②
17	R5.12	<p>【広報紙】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全戸配布となり、新聞をとっていない家にも広報紙が届くので、情報が手に入って良い。(森谷委員) ・毎月1日に手元に届くことが望ましい。(児玉委員・三輪委員) ・子どもたちが地元の企業を取材するコーナーがあれば、子どもたちと同世代の読者の関心を引くことができ、また、企業にも広報上のメリットがあるのではないかと。(岡内委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙は令和5年5月号から毎月1日から5日の間に全戸配布でお届けしています。また、毎月1日にホームページや大阪市公式LINEから広報紙デジタルブック版がご覧いただけますので、引き続き周知してまいります。 ・広報紙の紙面構成については、いただきましたご意見も参考にさせていただきますながら、改善に努めてまいります。 	②
18	R5.12	<p>【ホームページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層が深く、必要な情報にたどり着くまでに時間がかかる。(岡内委員・安田委員) ・トップページに観光のページを作れば区の魅力が発信できるのではないかと。(岡内委員) 	<p>区ホームページの構成については、いただきましたご意見も参考にさせていただきますながら、改善に努めてまいります。</p>	②
19	R5.12	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心のある情報が人によって違うので、広報紙やSNSを利用してWebアンケートを行う等、区からの情報が届いていない人の意見を吸い上げ、適切な情報発信につなげる仕組みが必要では。(岡内委員・舟本委員・宮崎委員) 	<p>区民モニターアンケートの結果等を活用しながら、区からの情報が届きにくい方の意見をお聞きし、より効果的な情報発信につながるよう取り組んでまいります。</p>	①
20	R5.12	<p>【100周年記念事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレイベントという位置づけで、既存の官民様々なイベントをまきこみ、参加してもらえば、多くの人が当事者感をもって盛り上がるのではないかと。(宮崎委員) ・子ども達に情報発信してもらうのがよい。(岡内委員) ・記念式典は、プロだけでなく、区民も出演したほうがよい。(舟本委員) ・もりあげ隊にミルクボーイ、記念式典には区内学校の吹奏楽部(プロとの合同演奏等)に参加してもらってはどうか。(酒井委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の人、団体等に、100周年記念の取組みに参画していただくしくみとして、「もりあげ隊(仮称)」を計画しております。いただいたご意見もふまえ、取組みをすすめてまいります。 ・式典には、区内の子どもたちがまちの紹介をする形での出演を予定しておりますが、いただいたご意見もふまえて検討してまいります。 	②
21	R5.12	<p>【100周年記念事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単発的な取組みではなく、未来に向けた取組であることをもって発信すべき(舟本委員) ・広報紙に100周年コーナーを定期的に掲載するとよい。(宮崎委員) ・〇〇日前ツイート、など発信すべき(立川委員) ・みらいプロジェクトの取組の結果を発信するなどするとよい(岡内委員) ・官民の万博機運盛り上げの取組ともうまく連携するとよい(舟本委員・宮崎委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・記念事業は、100周年を祝い、区の将来の発展について考えつなげていく取組みとしたいというメッセージを発信してまいります。 ・100周年を盛り上げる事業の情報や、取組の結果等を、SNSや、令和5年12月号に引き続き、広報紙で発信してまいります。 ・令和5年度に実施した、「『わたしたちのまちの未来』絵画・ポスター・キャッチコピー作品募集」に引き続き、万博機運盛り上げとの連携も随時行ってまいります。また、民間の万博盛り上げの取組みとの連携も検討してまいります。 	②
22	R5.12	<p>【100周年記念事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付者にとってもっと魅力のある内容で、クラウドファンディングで募集すべき。(安田委員) 	<p>100周年記念事業の寄附金募集は、区民の皆様にも100周年をともに祝い、区の将来の発展につなげていくという取組みに、参画していただくしくみの1つとして実施するものであり、特定の個別事業実施をめざし目標額の設定を伴うものではないため、クラウドファンディングではなくふるさと寄附金にて募集、寄附いただいた方には記念式典にご参加いただくという形で募集しております。</p>	④

※分類

- ①当年度(5年度)において対応 ②6年度運営方針に反映または6年度に対応予定
 ③6年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可
 ⑤その他